

## 第1回支え愛地域づくりモデル事業評価委員会 議事要点録

日時 平成28年8月1日(月)

午後1時30分～午後3時30分

場所：市役所 5階第2委員会室

出席者：(委員) 50音順：敬称略

荻野 淑 小西 澄子 高井 広吉 村上 寛誉 渡辺 敏夫

(事務局)

市民部長 荘加 淳夫

地域振興課長 村瀬 雅也 自治振興係長 各務 則行

自治振興係主任 吉田 拓矢 自治振興係主事 久保 光彦

### 1. あいさつ

可児市市民部長 荘加淳夫が第1回支え愛地域づくりモデル事業評価委員会の開催にあたりあいさつし、活発な議論をお願いした。〔委員長選出まで事務局で議事進行を行う〕

### 2. 委員の委嘱について

委嘱状を交付した。〔時間の都合上、机上にて交付〕

### 3. 自己紹介

委員、事務局それぞれが自己紹介をした。

### 4. 評価委員会設置要綱について

支え愛地域づくりモデル事業評価委員会設置要綱について、資料をもとに説明。事業の実施状況から今後の事業継続の可否等を検討し、その結果を市長に報告することを確認した。

### 5. 委員長の選出、あいさつ

#### (委員長の選出)

委員会設置要綱に基づき、互選により渡辺委員が委員長に就任した。〔委員長席へ移動〕

#### (職務代理の選出)

委員会設置要綱に基づき、小西委員が職務代理に就任した。

## (委員長あいさつ)

委員長があいさつし、活発な議論をお願いした。〔以後は、委員長が議事進行を行う〕

## 6. 議事

### (1) 事業実施状況と事業検証の報告

**委員長** 委員長が議事(1)について事務局に説明を求めた。

**事務局** 事務局が資料1に基づき、事業実施状況と事業検証について報告した。

### 質疑

**委員** P23(キ)「登録ボランティアが行う対象ボランティア活動」について、登録人数が少ない対象ボランティアがあるが、理由はあるか。

**事務局** 登録人数が少ないボランティアについては、今年度から対象としたものや、今後増えていく見込みのあるものである。

**委員** 報告を聞いて、ボランティアの人数が増えているのは分かったが、人数ではなく、回数は増えていないか。そのあたりの検証をしていたら、教えていただきたい。

**事務局** P26(ウ)「対象ボランティア活動ごとのポイント交換状況による分布」を見ると、どの活動をしているボランティアが、年間何ポイント取得したかが分かる。ただ、この数字も単純に回数を表したのではなく、大まかな傾向が分かるだけである。しかし、この数字もこの事業を開始して初めて分かったもので、どういう団体がどの程度活動しているのか、事業開始前は把握していなかったため、前後で比較することができない。

**委員** ということは、ボランティアの規模としては、事業導入前後でどうなったかの確認までは至っていないか。

**事務局** 個々のボランティア活動については、今のところ人数までしか把握できていないので、回数までは、この事業では分からない。しかし、例えば宅老所・サロンの数が以前より増えたかどうかは、別の事業で補助金を出している部署が検証していると思われる。

**委員** 宅老所は月2回以上の活動が基準で、サロンは月1回の活動が基準になっている。団体の数は事業導入前より確実に増えてはいるが、事業導入が理由で増えたかどうかは分からない。

**委員** ポイント付与基準は、1回の活動でも2時間以上の活動をすれば2ポイント交付される。また、ポイント付与上限があるので、100ポイントまでしか取得できない。したがって、単純にポイント数だけでは回数を計ることができない。ただ、他の補助金交付事業では回数を報告する必要があるので、検証できるはずである。

**委員** 多種類のボランティア活動をしている人は、年内にはポイント付与上限に到達してしまう。

**委員** この事業を通じて、ボランティアの規模を検証することができれば、可児市がボランティアの盛んな街であるということを、対外的にアピールする際に有効活用できるのではないかと。

**委員** 資料1のP21(ウ)登録ボランティア(市内在住)の住所を見ると、帷子や桜ヶ丘の割合が多い。この地域を参考にすれば、もっとボランティアが市内各地に広がっていくのではないかと。

**事務局** 帷子や桜ヶ丘は地区社協の活動が活発で、組織的に多くの方に参加いただいている。

**委員** 帷子や桜ヶ丘などの団地は、他の地区と比較して高齢化が進んでおり、互いに地域で支え合っているという活動が非常に活発である。

**委員** 市内全事業所数におけるKマネー協力店数の規模はどれくらいか。

**事務局** 市内全ての事業所が協力店に登録できる訳ではないので、母数が分からないと割合が算出できない。ただ、人口規模が可児市と同じくらいの市町村での金券発行事業に登録している店舗数と比較すると多い方だと思われる。

**委員** P34(ア)「Kマネー事業の評価(Kマネー利用者アンケート結果)」を見ると、約8割の人が大変良いもしくは良いと回答している。先程の説明の中で良くない評価をした人の意見があったが、逆に良い評価をした人の意見を検証し、そこを伸ばしていけば、事業はもっと良くなるのではないかと。

**事務局** 評価ごとに意見はまとめていないので、一概には言えない。アンケート回答者は、市からの補助金・報償費等で受け取った人が多く、回答者としては若干偏っている。

**委員** Kマネーを販売していることを知らない人が多い。商工会議所まで行かないと買えないのは、少し不便ではないか。例えば、各連絡所で買うことができれば、もっと購入が増えるのではないかと。もっと身近に購入できる場所があればいいという意見を多く聞いている。

## (2) 事業評価・検討事項について

**委員長** 委員長が議事(2)について事務局に説明を求めた。

**事務局** 事務局が資料2に基づき、事業評価・検討事項について説明し、項目ごとに評価を依頼した。

### (1) 地域支え愛ポイント制度

#### 登録ボランティアについて

**評価結果** 現行制度が適正であると判断する。

#### 対象ボランティア活動について

**評価結果** 現行制度が適正であると判断する。

ポイント付与機関について

**評価結果** 現行制度が適正であると判断する。

ポイントの付与基準について

ポイントのKマナー交換について

**評価結果** 一部検討が必要である。

**委員** ポイント付与機関としては、ポイント付与基準が1回につき1ポイントに変更されたので、ポイントを計算する手間がなくなり、シール交付がとても楽になった。

**委員** 事業導入直後は、ポイントシールをもらうことに抵抗があった。自分たちはボランティアをしているのに、ポイントをもらっていいのかという思いがあった。しかし、ポイント交換して交付されたKマナーを寄付することもできることを知り、寄付を通じてさらに社会貢献できることはありがたいと感じた。

**委員** ポイントの付与はボランティアに対する市からの御礼の気持ちである。現行の制度ではポイントの上限が100ポイントとなっているが、謝礼として何ポイントを上限とすることが適正なのか。もう一度検討が必要である。

**事務局** 取得ポイントが100に到達した時期がいつ頃なのかを社協に依頼して調査中である。ポイントの付与上限、交換上限について、次回の検討事項とさせていただく。

## (2) Kマナーの発行

Kマナーについて

**評価結果** 現行制度が適正であると判断する。

協力店によるプレミアム特典について

**評価結果** 現行制度が適正であると判断する。

協力店による社会貢献協力金の負担について

**評価結果** 一部検討が必要である。

**委員** クレジットカードの手数料は約3%なので、社会貢献協力金1%は協力店にとって安いのではないかと。これを2%に上げて、1%を事業費に充当し、残りの1%を金融機関の換金手数料に充てるのもいいのではないかと。

**事務局** 協力店アンケートの結果では、大半の店舗が1%は適正であると回答しているが、この場で再度検討が必要であると思われるので、次回の検討事項とさせていただきます。

市内金融機関での換金について

**評価結果** 一部検討が必要である。

**委員** これまで、Kマネーの発行規模は順次拡大してきたとのことだが、適正な発行規模はいくらぐらいなのか。今後あまり増やし過ぎて、今のしくみで対応することができなくなることはないか。市民の利便性を考えると、Kマネーにバーコードをつけて管理したり、将来的には換金も販売もコンビニで対応するというのも検討できるといい。

**委員** 今後発行規模を拡大していくのであれば、金融機関での換金業務も簡素化していく必要がある。

**事務局** 現状は、換金業務を無償でご協力いただいております。市として非常にありがたく思っている。今後、発行規模を拡大するのであれば、無償協力の継続についても必然的に検討しなければいけないので、次回の検討事項とさせていただきます。

Kマネーの販売について

**評価結果** 一部検討が必要である。

**委員** 販売場所について、検討が必要である。

**委員** 連絡所で販売はできないか。

**事務局** 検討する必要がある。ただ、連絡所で販売しても休日に販売できない。

**委員** 金融機関で販売はできないか。

**委員** この場で判断するのは難しい。

**委員** P27 「社会貢献協力金の地域支え愛ポイント制度事業費への充当状況」を見ると、平成27年にプレミアムKマネーを発行した際に納入された社会貢献協力金が約424万円あった。これがなければ、市の一般財源からの支出がもっと増えていたということを見ると、今後もプレミアムKマネーの発行は必要ではないか。

**委員** 何年かに1度は、地域経済活性化のために、プレミアムKマネーの発行は必要であると思われる。

**事務局** 事業費への充当を考えると、毎年2億5千万円の発行が必要になる。今後のプレミアムKマネーの発行及び販売場所については、次回の検討事項とさせていただきます。

(3) 今後の事業展開や課題について

**事務局** 本日出た意見をまとめて、次回の会議で検討事項とさせていただきます。

(3) その他の意見

**委員** Kマナーのゆるキャラをつくって、事業のPRをしてもおもしろいかもしれない。

**委員長** 他に意見がなければ、会議を閉めさせていただきます。本日は委員の皆さんに活発な意見を出していただき感謝している。今回出た意見を事務局でまとめてもらい、次回の検討事項としていきたい。また、今後の方向性としては、可児市における地域の支えあいのしくみづくりと地域経済の活性化のために、事業を継続してもらい、さらに発展させていくこととしたいが、よろしいか。

**他委員** 異議なし。

7. その他

**事務局** 事務局が次回の会議日程について説明した。

8月30日(火) 13:30~ 庁舎4階第2会議室

閉会